

(Translation)

Case: Japanese Utility Model Laid-Open Publication No. 175091/1983

Title: Correcting Implement for Holding Writing Means

Applicant: Norio KIKUKAWA, Japan

Claims:

1. A correcting implement for holding a writing means, comprising:
a tubular body to be outwardly fitted on a writing means such as a pencil; and
a holding part integrally formed with the tubular body on an outer periphery thereof; wherein
first to third recessed portions are formed in an outer surface of the holding part at substantially equal angles, each for positioning a thumb, an index finger, and a middle finger;
each of the first and second recessed portions is tapered from a front end of the recess toward a rear end thereof; and
the third recessed portion has a U-shaped groove extending perpendicularly to an axis of the tubular body.
2. The correcting implement for holding a writing means according to claim 1, wherein
the tubular body is formed of a tubemember of a resilient material such as soft plastics or rubber.
3. The correcting implement for holding a writing means according to claim 1, wherein
the tubular body and the holding part are made of a resilient material such as soft plastics or rubber.

BEST AVAILABLE COPY

公開実用 昭和 58— 175091

09 日本国特許庁 (JP)

11 実用新案出願公開

12 公開実用新案公報 (U)

昭58—175091

51 Int. Cl.²

B 43 K 23:02

識別記号

庁内整理番号

6951—2C

43 公開 昭和58年(1983)11月22日

審査請求 有

(全 頁)

54 筆記具欄持矯正具

21 実 願 昭57-70962

22 出 願 昭57(1982)5月14日

72 考 案 者 菊川起男

宝塚市仁川高丸1丁目15の8
出 願 人 菊川起男

宝塚市仁川高丸1丁目15の8
74 代 理 人 弁理士 清脇忠司



明 細 書

1. 考案の名称

筆記具摺持矯正具

2. 実用新案登録請求の範囲

5 1. 鉛筆などの筆記具に外嵌着するための筒状部と、この筒状部の外周に一体に設けられた摺持部とを備え、摺持部の外面における略等角度おきの三箇所、親指、人差し指および中指をそれぞれ位置決めするための凹陥部が形成され、これらのうち、親指および人差し指位置決め用の各凹陥部は、その前端部が最も深く、これに連続して後端部に近付くほど次第に浅くなるように構成され、中指位置決め用の凹陥部は、上記筒状部の軸線に対して交叉する方向に延びるU溝状に構成された筆記具摺持矯正具。

10

15

2. 筒状部が、軟質プラスチックやゴムなどの弾性部材からなるチューブ体によつて構成されている実用新案登録請求の範囲第1項記載の筆記具摺持矯正具。

20



3. 筒状部および握持部が軟質プラスチックやゴムなどの弾性部材にて構成されている実用新案登録請求の範囲第1項記載の筆記具握持矯正具。

5 3. 考案の詳細な説明

この考案は、鉛筆やボールペンなどの筆記具を正しい状態で握持させるために、これらの筆記具における軸部に装着して使用される筆記具握持矯正具に関するものである。

- 10 周知のように、筆記具を持つ場合、筆記具の軸部における周方向上半部を親指および人差指の各先端腹部で軽くけさみ、中指の先端脇腹部でその下半部を軽く支持しておくのが正しい持ち方とされている。このような正しい持ち方を幼児や学童
- 15 に口頭で教えることはなかなか困難であり、大人が手本を示しても、その場では正しい持ち方をするか、文字や絵をかくことに夢中になると次第にその持ち方が乱れ、それにつれて姿勢が悪くなる。また、筆記具を正しく持つことによつて
- 20 文字の上達が速くなることは良く知られていると



ころである。

一方、筆記具で文字を書く場合、筆記具を軽く持つていても指先がその軸部に対してすべらず、また、筆記具の中心がその握持部付近にあり、さらに、その握持部がある程度太くなっていることが長時間にわたって楽に筆記するために必要であることは、日常、よく経験されることである。

このような事情から、従来、ボールペンやシャープペンシルなどでは、その握持部を他部よりもわずかに太くし、その部分に無数の引掻状のきずや環状の凹凸部を形成したり、あるいはその握持部にゴム素材などによつて製作されたチューブ体からなる筆記具用すべり止め具を外嵌着することが試みられている。

しかしながら、このような従来のもものでは、握持部をある程度太くし、軽く持つてもすべらないようにすることはできても、筆記具の持ち方を矯正したり、その重心を筆記具の握持部付近に位置させることはできない。そのため、従来のもものは、もつばら、大人専用具として利用されているのが



現状である。

この考案は、以上の事情に鑑みてなされたものである。

すなわち、この考案は、鉛筆などの筆記具に外嵌着される筒状部と一体に形成された握持部の外面において、その略等角度おきの三箇所に、親指、人差指および中指をそれぞれ位置決めするための凹陥部を一定の特殊な形状のものとして構成することによつて、幼児や学童に筆記具の正しい持ち方を容易に習得させることができる上、文字の上達も速く、また、長時間にわたつて楽に筆記することからできるような利点をもつた筆記具握持矯正具を提供することを目的とするものである。

つぎに、この考案を図示した実施例にしたがつて説明する。

第 1 図～第 3 図において、鉛筆などの筆記具 A に外嵌着された握持矯正具 B は、軟質プラスチックなどの弾性部材によつて構成された筒状部 1 とその外周に一体に設けられた握持部 2 とからなる。これら筒状部 1 と握持部 2 とは別体とし



て構成されたものを相互に相嵌着して一体としても、あるいは、両者を一体成形したもののでも良い。すなわち、前者は、第6図に示されるように、前後両端に銑部1a,1bを備えたチューブ体によつて
5 上記筒状部2を構成し、このチューブ体の外周で、かつ、銑部1a,1b間に維持部2を外嵌着し、これによつて両者を一体化したものである。また、後者は、第7図に示されるように、筒状部1と維持部2とを一体形成して、その中心部分に筆記具A
10 の嵌着孔3を形成させたものである。

つぎに、第1図～第3図から明らかのように、維持部2は全体として円筒状ないし三角筒状をなすものであつて、その外面における略等角度おきの三箇所それぞれ凹陷部4,5,6が形成される。
15 これらはそれぞれ親指p、人差指mおよび中指cの各位置決め用として作用するものであり、そのうち、親指位置決め用凹陷部4および人差指位置決め用凹陷部5は、第2図、第4図および第8図に示されるように、上記筒状部1の軸線Xに沿う
20 方向に長いものとして形成されている。そして、



それらの前端部が最も盛んだ形態とされ、この最
 深部 4a, 5a に逆説して後端部 4b, 5b に近付くほど
 次第に浅くなるように構成されるとともに、これ
 らの二つの凹陥部 4, 5 は、略三角筒状維持部 2 の
 二面においてそれぞれその対角線に沿うように形
 成されている。これに対し、中指位置決め用凹陥
 部 6 は第 1 図、第 3 図および第 5 図～第 7 図から
 明らかなように、上記軸線 X に対して直角に近い
 角度で交叉する方向に延びる U 溝状のものとして
 構成され、上記した二つの凹陥部 4, 5 における各
 最深部 4a, 5a に対応した位置に形成される。

以上説明した維持矯正具 B は、その筒状部 1 を
 介して、筆記具 A における軸部 A1 に嵌脱自在であ
 る。すなわち、筒状部 1 および維持部 2 のうち、
 少なくとも筒状部 1 は、軟質プラスチックやゴム
 などの弾性部材によつて構成されているため、そ
 の筒状部 1 の内径を筆記具 A における軸部 A1 の外
 径よりも稍々小さくなるように設定しておけば、
 その嵌挿状態にあつては、その弾性による挟着力
 によつて、上記軸部 A1 の所望の位置でこれが外嵌



着される。また、軸部A1に外嵌着されているものを引き抜くことも自由である。

第8図に、握持矯正具Bを筆記具Aにおける軸部A1に外嵌着し、これを、手で正しく持った状態が戦略的に示されている。すなわち、正しい持ち方では、親指pおよび人差指mでそれぞれの位置決め用凹陥部4,5間が挟まれ、中指cがその位置決め用凹陥部6に軽く当てがわれる。さらに詳しくは、親指pの先端腹部がその位置決め用凹陥部4の最深部4aに当てがわれ、また、人差指mの先端腹部がその位置決め用凹陥部5の最深部5aに当てがわれ、さらに、中指cの脇腹部がその位置決め用凹陥部6に当てがわれる。この状態は第4図および第5図に示される。

この握持矯正具Bを介して筆記具Aを持つ場合、上記の持ち方によればその状態が安定し、正しい姿勢で長時間、楽に筆記することができる。しかし、上記以外の持ち方では、親指p、人差指mおよび中指cが各凹陥部4,5,6によつて正しく位置決めされないため、各凹陥部4相互間の後部7,8



9 (第1図参照)がこれらの指に当たることになり、持ち方が安定しないばかりでなく、指が痛くなる。したがって、筆記者は、自然に上記した正しい持ち方で筆記具Aを持つのである。

5 また、このような維持矯正具Bを筆記具Aに装着することにより、その分だけ維持位置の太さが太くなるために持ちやすくなる上、その重さによつて筆記具Aの重心が維持位置に移り、長時間の筆記によつても疲れない。

10 つぎに、維持矯正具Bはその筒状部1が軟質プラスチックやゴムなどの弾性部材からなるチューブ体によつて構成されているため、第1図に示すように、軸部A1が円形の場合であつても、あるいは第9図に示すように、軸部A1が六角形状をなす
15 もの場合であつても、良好な嵌着状態が得られるので、その汎用性に富むものである。

以上の説明から明らかなように、この考案によれば、維持部に形成された三つの凹陥部によつて、親指、人差指および中指が正しい状態で位置決め
20 され、それ以外の状態では持ち方が安定しないた



め、幼児や学童は自然に正しい持ち方で筆記具を持つようになり、長時間続けて筆記しても余り疲れない。また、筆記具における軸部の太さが、この維持矯正具を装着することによつて太くなり、

- 5 重心がその位置に設定されるので、書きやすい状態となる。

このように、この考案の維持矯正具は、幼児や学童に正しい筆記具の持ち方を習得させるのにき
わめて有益であり、また、大人にとつても長時間
10 筆記しても疲れないという利点がある。

4. 図面の簡単な説明

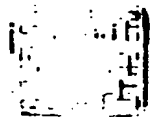
- 図面はこの考案の実施例による維持矯正具を示したものであり、第1図は拡大した縦断面図、第2図は第1図の矢印a方向からみた斜視図、第3
15 図は第1図の矢印b方向からみた斜視図、第4図は親指または人差指位置決め用凹陷部を示す半断面図、第5図は中指位置決め用の凹陷部を示す半断面図、第6図および第7図はそれぞれ相異なる部分を示す縦断側面図、第8図は筆記具を保持した
20 状態の斜視図、第9図は形状の異なる筆記具に装



着した場合の縦断面図である。

A...筆記具、A1...筆記具の軸部、B...握持矯正
具、1...筒状部、2...握持部、4...親指位置決め
用凹陥部、5...人差指位置決め用凹陥部、6...中
指位置決め用凹陥部、p...親指、m...人差指、c
...中指。

出願人 菊 川 起 男
代理人 溝 脇 忠 司

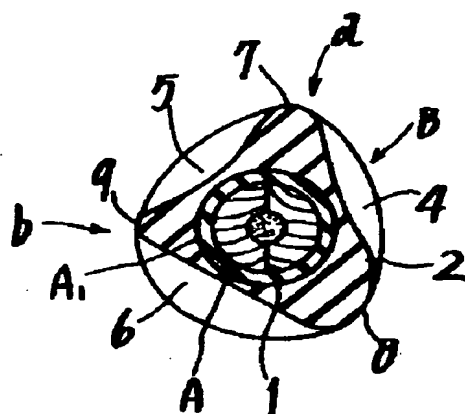


10

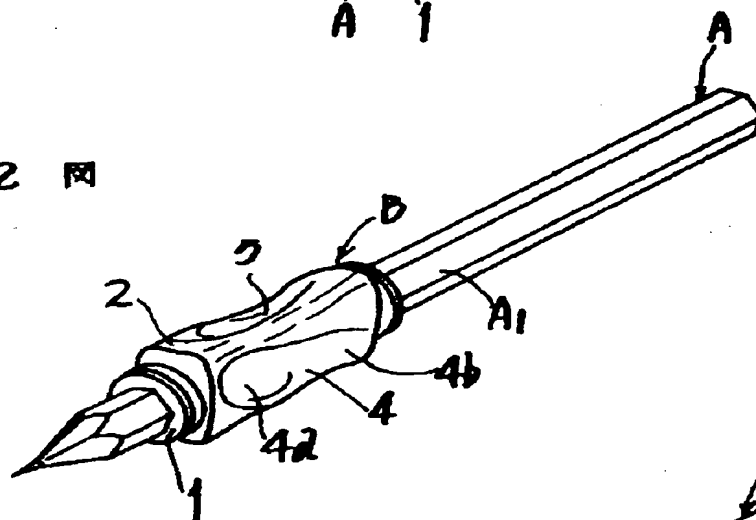
15

20

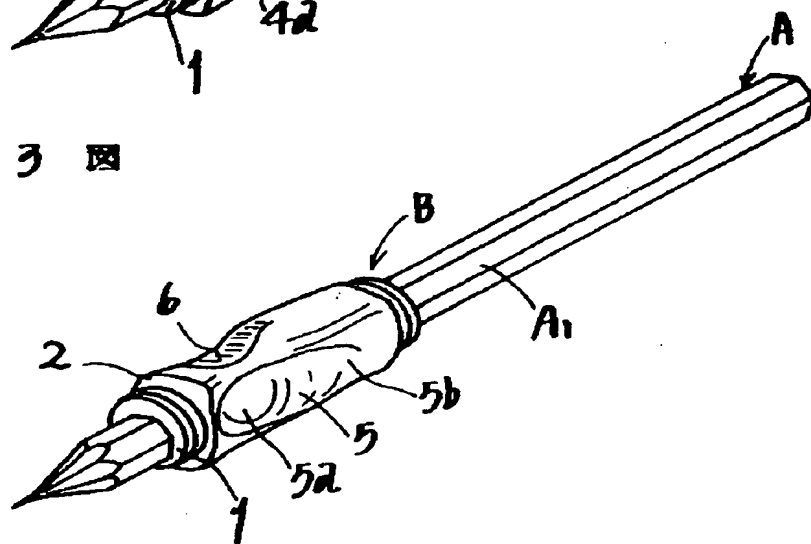
第 1 圖



第 2 圖



第 3 圖

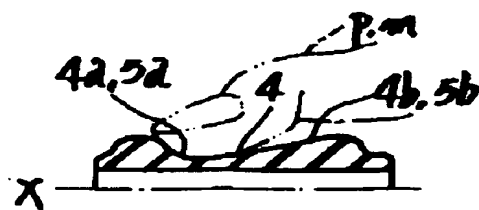


731

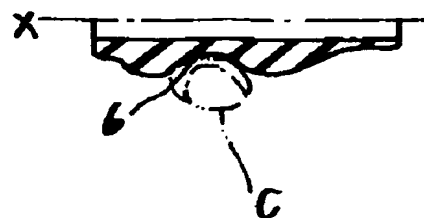
昭和 58 - 1750

實用新案登録出願人代理人 溝 脇 忠 司

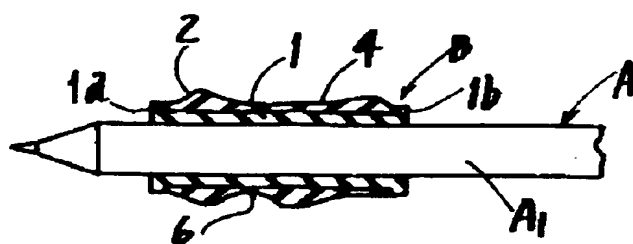
第 4 圖



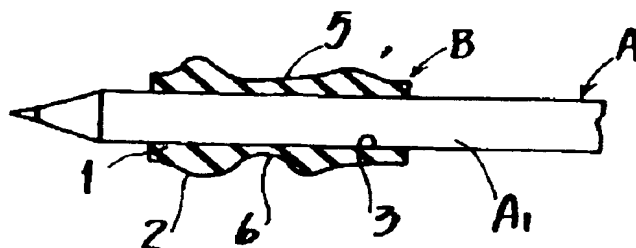
第 5 圖



第 6 圖



第 7 圖

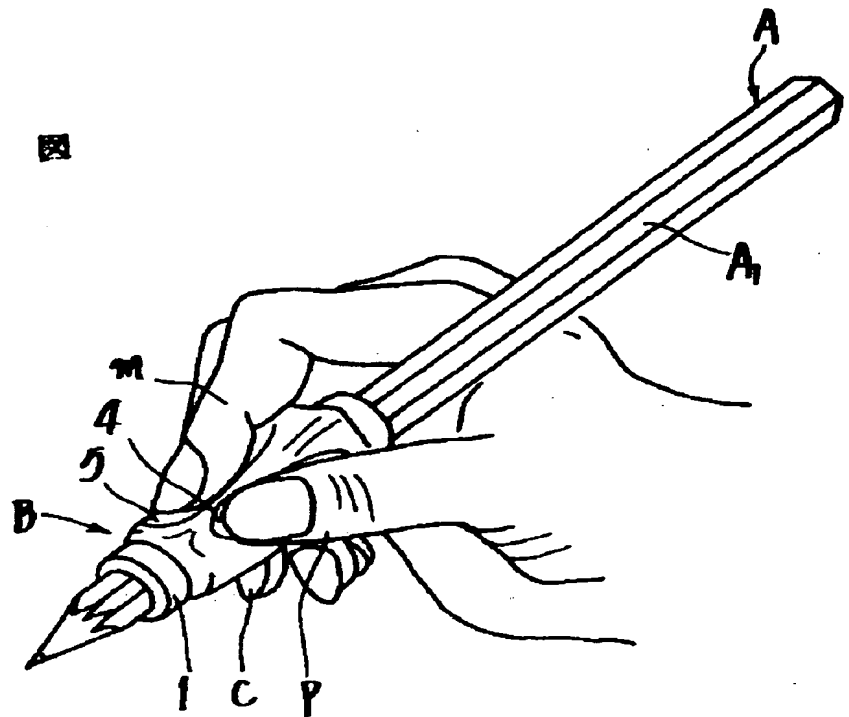


732

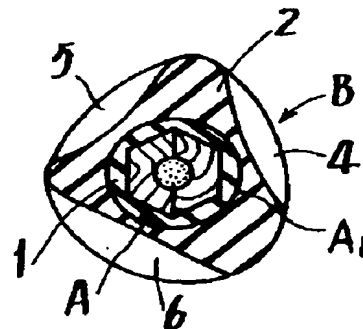
175001

實用新案登錄出願人代理人 清 脇 忠 司

第 8 図



第 9 図



7:

実用新案 1750

実用新案登録出願人代理人 溝 脇 忠 司

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ **BLACK BORDERS**
- ☐ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☐ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☐ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.